

09 いじめられた子に寄り添って (子ども)

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は、いじめに遭った高校生の、お母さんからの手紙を紹介します。

【母親役】

子どもに関わる、すべてのみなさまへ。

10 娘は高校に入学して間もなく、いじめに遭いました。同じクラスの生徒3人に「私たちの悪口を言ったでしょ」と、まったく身に覚えのないことで責め立てられたのです。クラスの中心的な3人組から目をつけられて、娘は教室に入るのが怖くなりました。授業を受けられないまま夏がすぎ、とうとう留年が決まってしまいました。

20 いじめた側は以前と変わらず学校生活を楽しんでいるのに、いじめられた側が授業を受けられないなんておかしい。私も娘も納得できないまま、時間だけが過ぎていきました。

25 その後、いじめ支援団体のサポートも受けて、学校や教育委員会と話し合いを重ねました。娘は補習授業を受けられることになり、留年は取り下げられました。再び登校できるようにはなりましたが、夜眠れないなどの不調は続いています。いじめの影響は今も、娘の心と体に残っているのです。

30 不幸中の幸いだったのは、娘がすぐに「SOS」を出してくれたことです。「クラスメイトにこんなことを言われて怖かった」と私に話してくれました。もし誰にも相談できていなかったら、心を閉ざして何年も引きこもっていたかもしれない。命が失われるような、最悪の事態だってあり得るので

35 子どもに関わる、すべてのみなさま。いじめに遭ったその子が相談しやすい環境をつくれていますか。もし相談を受けたら、その子の「いじめられている」という気持ちに、どうか寄り添ってください。勇気を出して訴えたのに解決しなければ、その子は二重の苦しみを味わいます。孤独におびえているその子の、味方になってほしいのです。

40 (ナレーター) お母さんの気持ち、届いたでしょうか。小さなトラブルなのか、深刻ないじめなのか。それをおとなの尺度で判断するのではなく、子どもの立場に立って受け止めることが大切ですね。

45